

第5回要約

昔、人が未開の地に定住するとき、里山をつくりました。それは、林ややぶを開墾して畑や田んぼをつくり、自給自足の生活ができるようにです。だから、米や麦、野菜や果物をそだてて、家畜を飼って生活します。つまり、水、燃料が必要で、そこで燃料にする木を家の近くにたくわえておかなければなりませんから、^{燃料}燃料用の林は、ひとつの村ごとに必要です。みんなで協力して、こうした燃料になる木、雑木林を守っていました。けれども、

一九六五年ごろになると、電気や灯油で簡単に使える製品が増え、家の中が変わりはじめます。そして、手をよごさずに快適な生活がおくれる^{燃料}「燃料革命」がおこりました。そのころには、雑木林と人間の生活とは関わりのない林に変わってしまいました。やがては、住宅地が変わってしまいました。